

保育の質に関する
アンケート結果報告書
〈保育者調査〉

株式会社日本総合研究所
2022年8月

1. 保育者のアンケート調査 調査概要

保育士と幼稚園教諭計2,000名に、保育の質に関する課題意識を調査。

【調査概要】

全国のGMOリサーチパネルのうち、回答者2,000名を募集
全国

保育士 1,500名

幼稚園教諭 500名

※幼稚園教諭には、「保育士資格」保持者も含む

【調査実施時期】

2022年3月

【調査内容】

施設への満足度、ニーズ、転職理由
理想とする保育と、現在の保育とのギャップ
個々の子どもに寄り添うための方策

【分析の視点】

単純集計

クロス集計（設問抜粋にて、勤務年数別・役職別）

1. 保育者のアンケート調査 結果要約 (1/2)

- 職場の良好な人間関係、保育者の意見の尊重、保育・教育方針が就職・離職の重要な要素である。
- 「子ども一人一人に丁寧にかかわること」「子どもの意見を聴くこと」等は、多くの保育者が理想とし、心掛けてはいるが、十分実現できていない。

調査結果

示唆

就職・ 離職理由、 満足度

- 就職の際重視した要素、満足度ともに、「アクセス」、「施設の雰囲気・人間関係」の順に高い。
- 離職理由は、「結婚、妊娠・出産・子育て・家事、介護、家庭の事情」が最も多いが、次いで「職場の人間関係」、「給料」、「自分が理想とする保育・教育ができない、意見を尊重してもらえないことへの不満」、「保育・教育方針への不満」となっている。

- 人間関係が給料よりも離職要因の上位にある。
- 職場の人間関係改善、保育者の意見の尊重等を行うことで、施設にとって人材定着につながる可能性がある。

子どもへの 接し方 ・理想とする保育・ 個々の子どもへの 寄り添い 状況

- 子どもへの接し方は、自分の理想に照らして、**95.2%の人が何らかの課題**を感じている。「子ども一人一人に丁寧にかかわること」、「子ども一人一人の個性の把握、成長支援」の順に高い。特に、役職なしの保育者が課題に感じている。
- 理想とする保育・教育で時間を多く割くべきことは、「子どもの意見を聴くこと」が最も多い。
- 個々の子どもに寄り添う支援は「したいと思うが、あまりできていない・できていない」が40.5%。要因は、職員人数不足、事務等の業務量が多いが、「保育者間のコミュニケーション不足」も28.9%。

- 「子ども一人一人に丁寧にかかわること」に関して、多くの保育者が課題に感じている。
- 「子どもの意見を聴くこと」は、多くの保育者が理想とし、心掛けてはいるが、実際には不十分と感じている。
- その要因として、人員数や間接業務量のほか、職員間コミュニケーションの問題もある。

1. 保育者のアンケート調査 結果要約 (2/2)

- 「職員間のコミュニケーション」や日々の保育のフィードバックの機会の確保により、個々の子どもへの寄り添いが実現できる可能性がある。

調査結果

示唆

個々の子どもへの寄り添い状況の実現方法

- 個々への寄り添いの実現方法は、「**個々の子どもの個性や成長についての職員間の共有機会**」が最も多く52.9%、次いで「**日々の保育の振り返り機会**」が49.1%。

よりよい保育・教育の実現のために、施設等に求めること

- 「**職員間のコミュニケーション**」が最も多く45.7%、次いで「**職員のスキルアップ、保育・教育に関する知識の習得機会**」が42.1%。

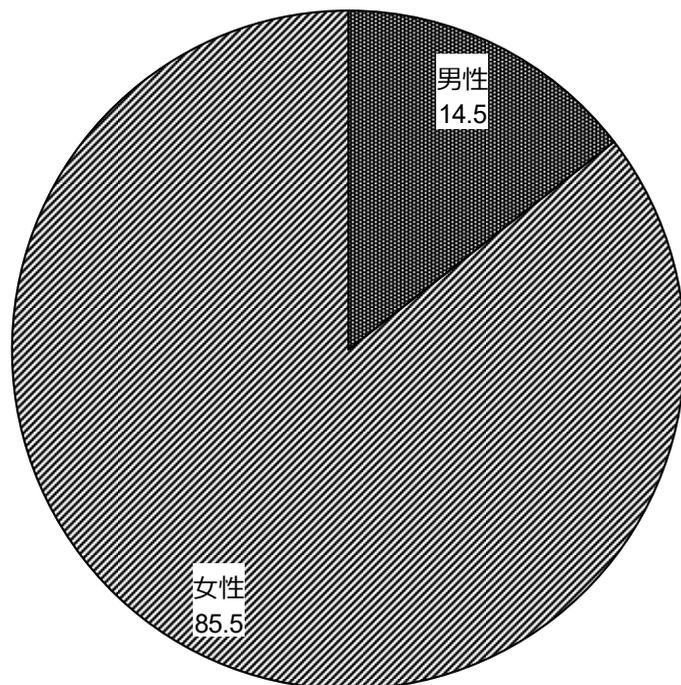
- 個々の子どもの個性や成長についての共有を意図した「**職員間のコミュニケーション**」や**日々の保育のフィードバックの機会**が現状は十分ではない。
- そのような機会が増えることで、多面的に一人一人の子どもの個性等に対する理解が深まり、子どもにとってよりよい保育・教育環境が実現される。

2. 基本情報 回答者の性別、年代

回答者の性別、年代は以下の通り。

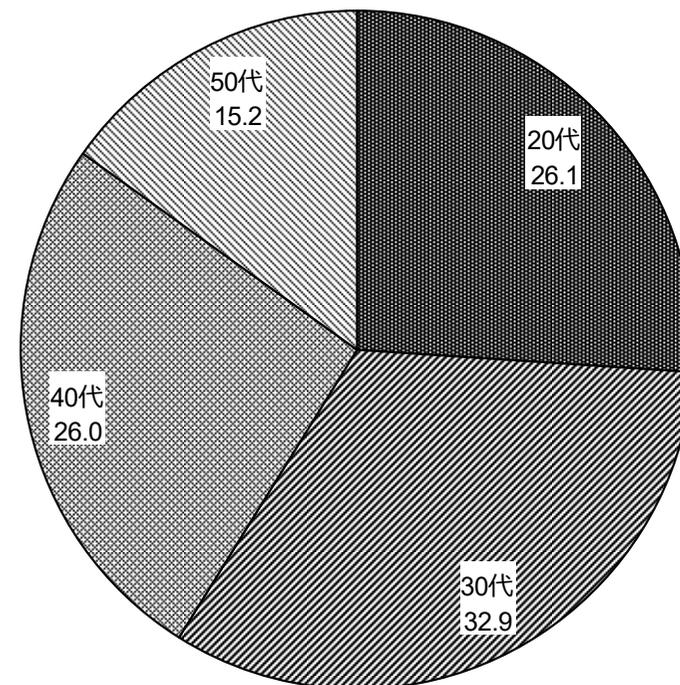
性別

(n=2,000) (%)



年代

(n=2,000) (%)

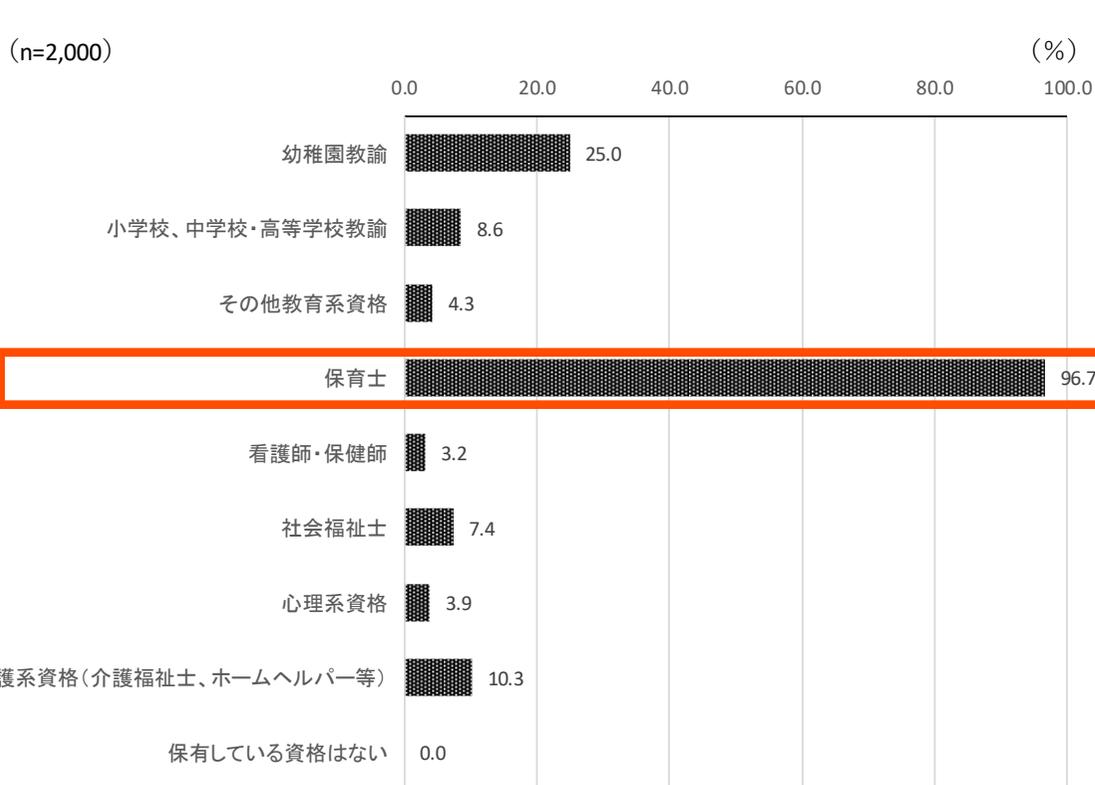


調査結果の見方：円グラフ、帯グラフは単数回答、棒グラフは複数回答

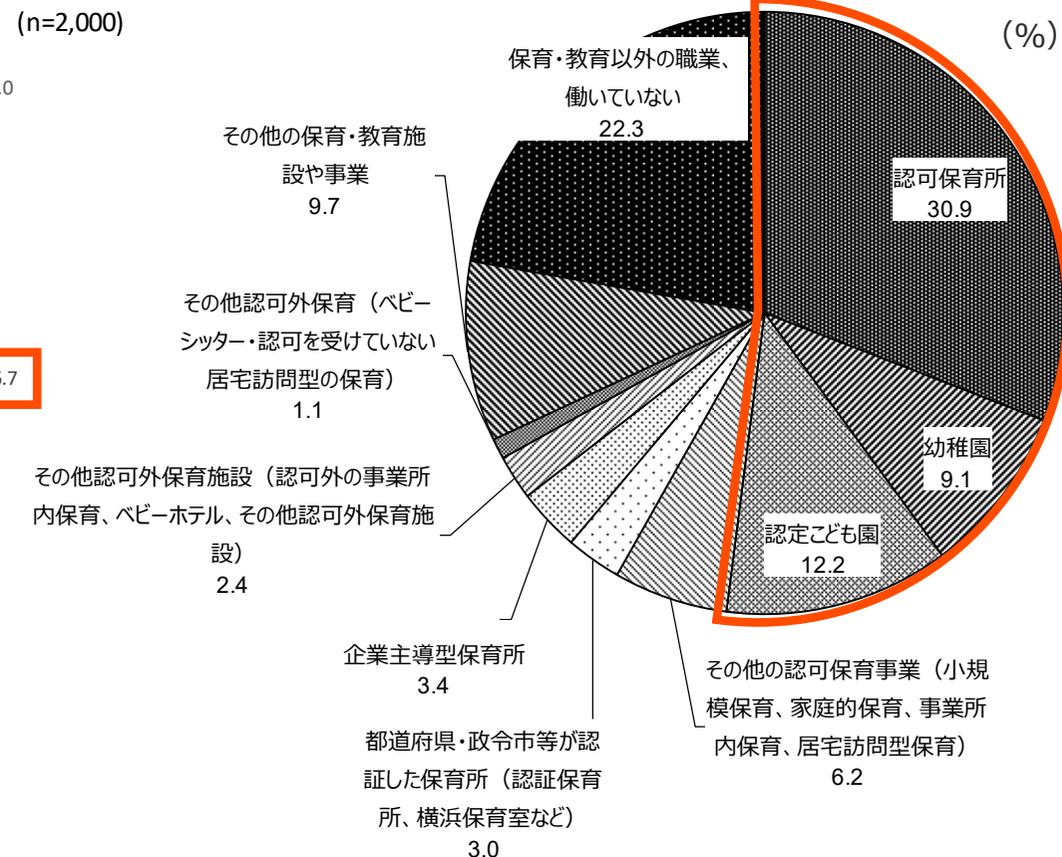
2. 基本情報 保有資格、現在勤めている施設形態

幼稚園教諭も保育士資格を持っている人が大半で、回答者の97%弱が保育士資格を保有。現在勤めている施設は、「認可保育所」が3割、「幼稚園」、「認定こども園」が約1割ずつ。

保有資格



施設形態

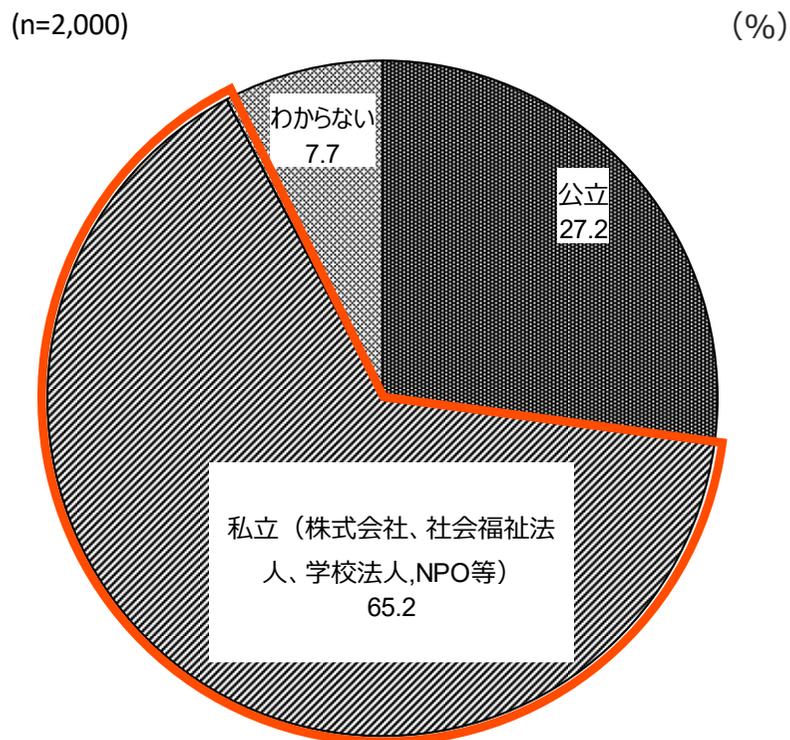


2. 基本情報 勤務先施設の公立私立区分、保育士資格の取得方法

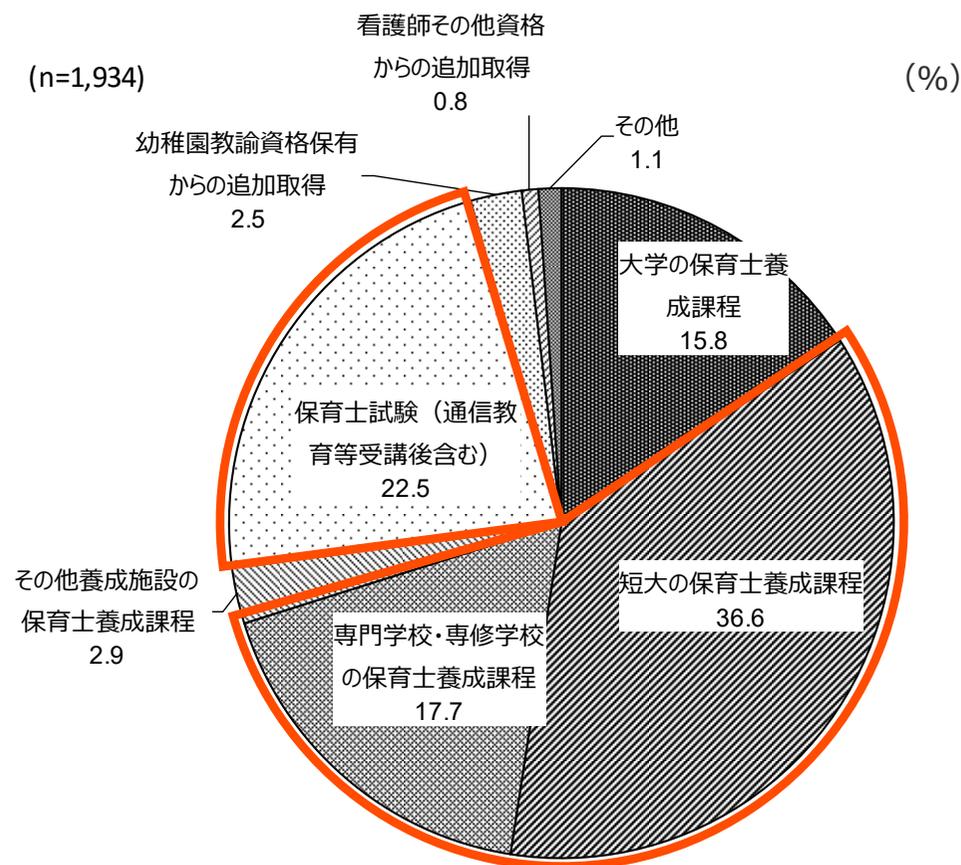
勤務先施設の公立私立区分は、私立が65%。

保育士資格保有者の保育士資格取得方法は、「短大の保育士養成課程」が最も多く、次いで「保育士試験」、「専門学校・専修学校の保育士養成課程」となっている。

公立私立区分



保育士資格の取得方法

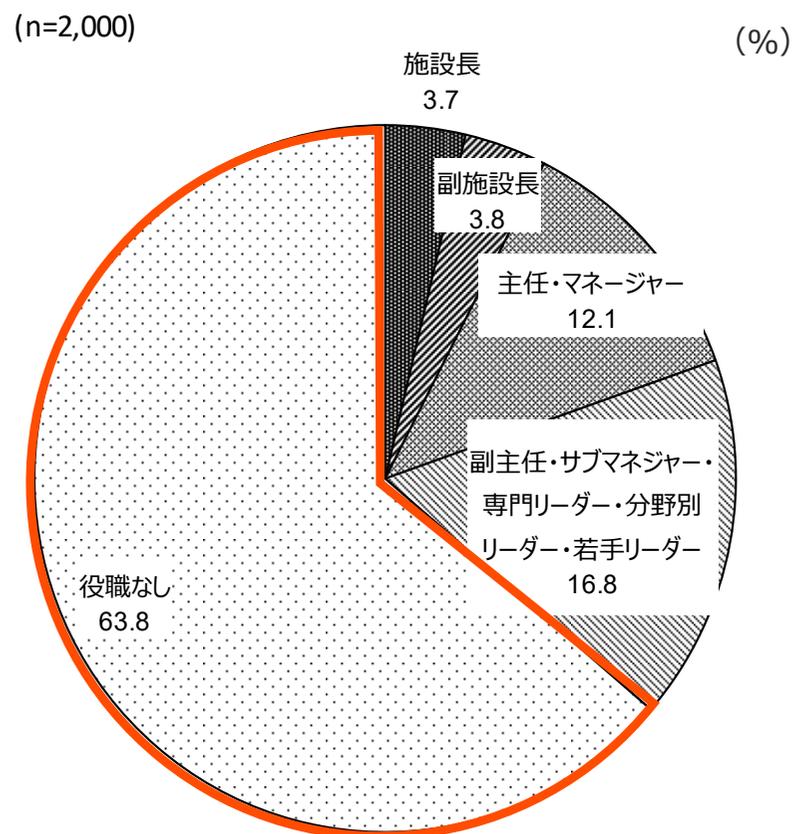


※現在、保育・教育施設で働いていない方は、過去に勤めていた保育・教育関連施設について回答

2. 基本情報 役職、勤務形態

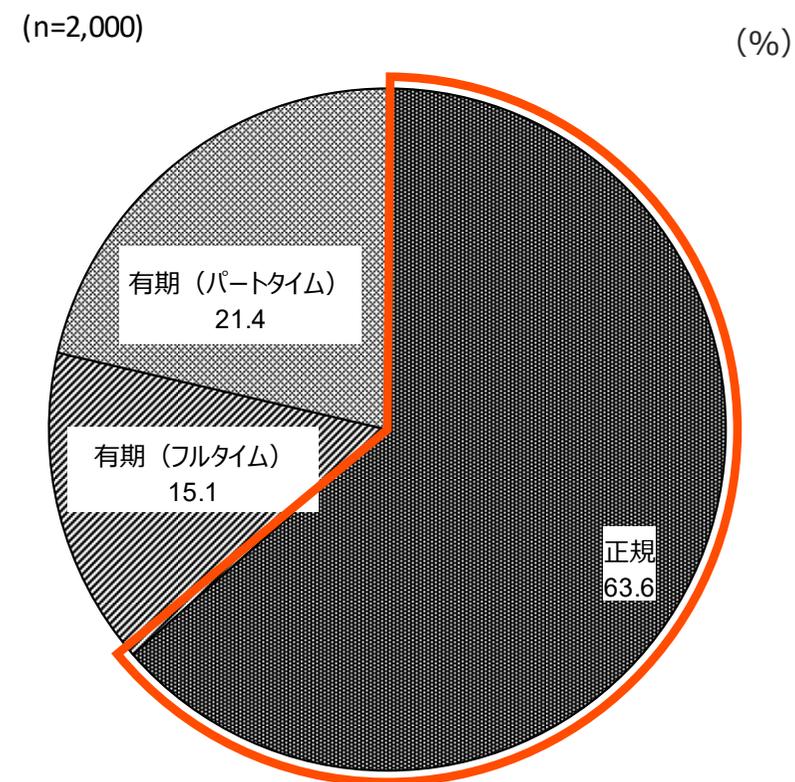
役職は、「役職なし」が63.8%。
勤務形態は、正規職員が63.6%。

役職



※現在、保育・教育施設で働いていない方は、過去に勤めていた時の最終的な役職について回答

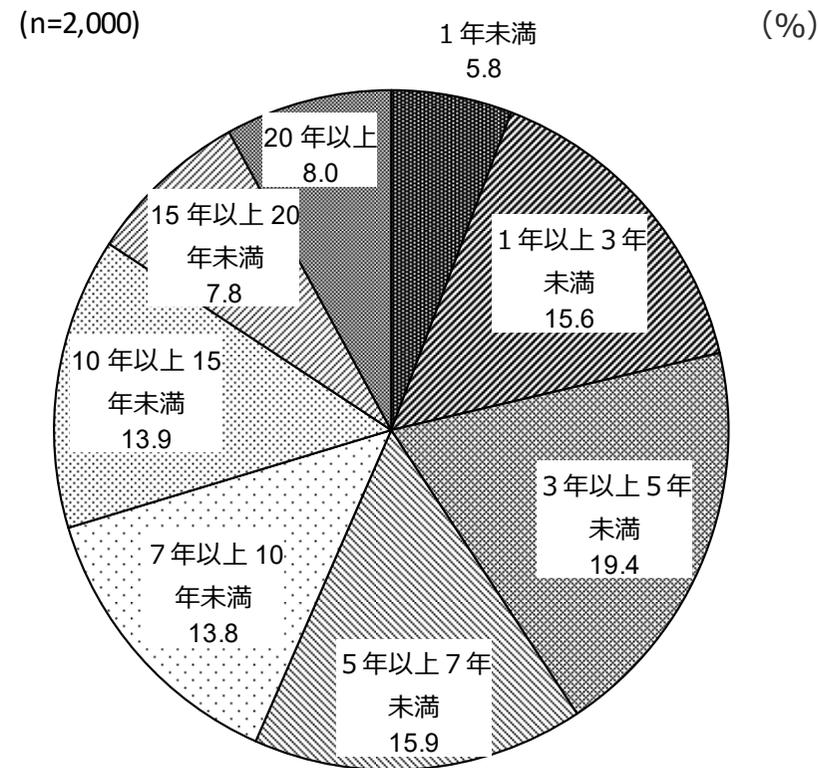
勤務形態



※現在、保育・教育施設で働いていない方は、直前に勤めていた時の勤務形態について回答

2. 基本情報 通算勤務年数

通算勤務年数は以下の通り。



※現在、保育・教育施設で働いていない方は、過去に働いていた通算年数について回答

3. 就職・離職 転職経験、離職理由

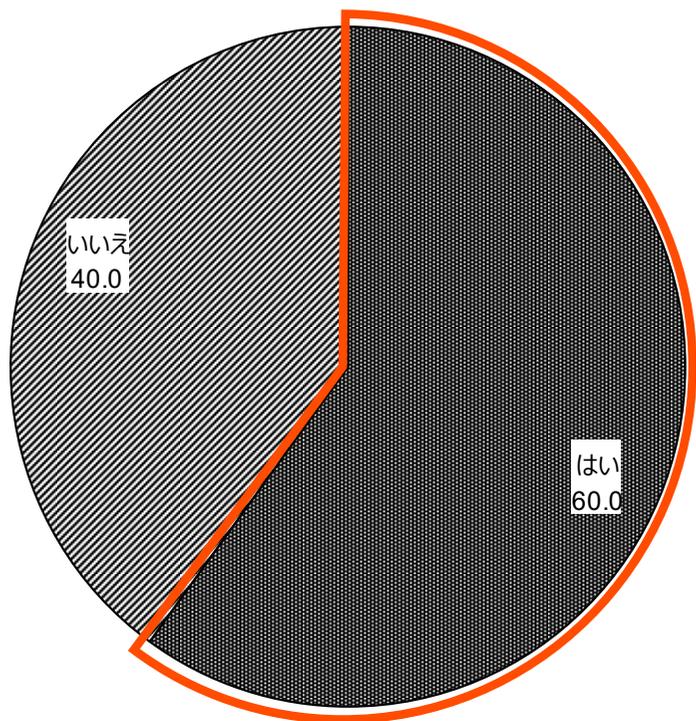
転職・離職したことがある人（「はい」）は60.0%。

転職・離職理由は、「結婚、妊娠・出産・子育て・家事、介護、家庭の事情」が最も多く32.9%。次いで「職場の人間関係」、「給料」、「自分が理想とする保育・教育ができない、意見を尊重してもらえないことへの不満」、「保育・教育方針への不満」となっている。

転職経験

(n=2,000)

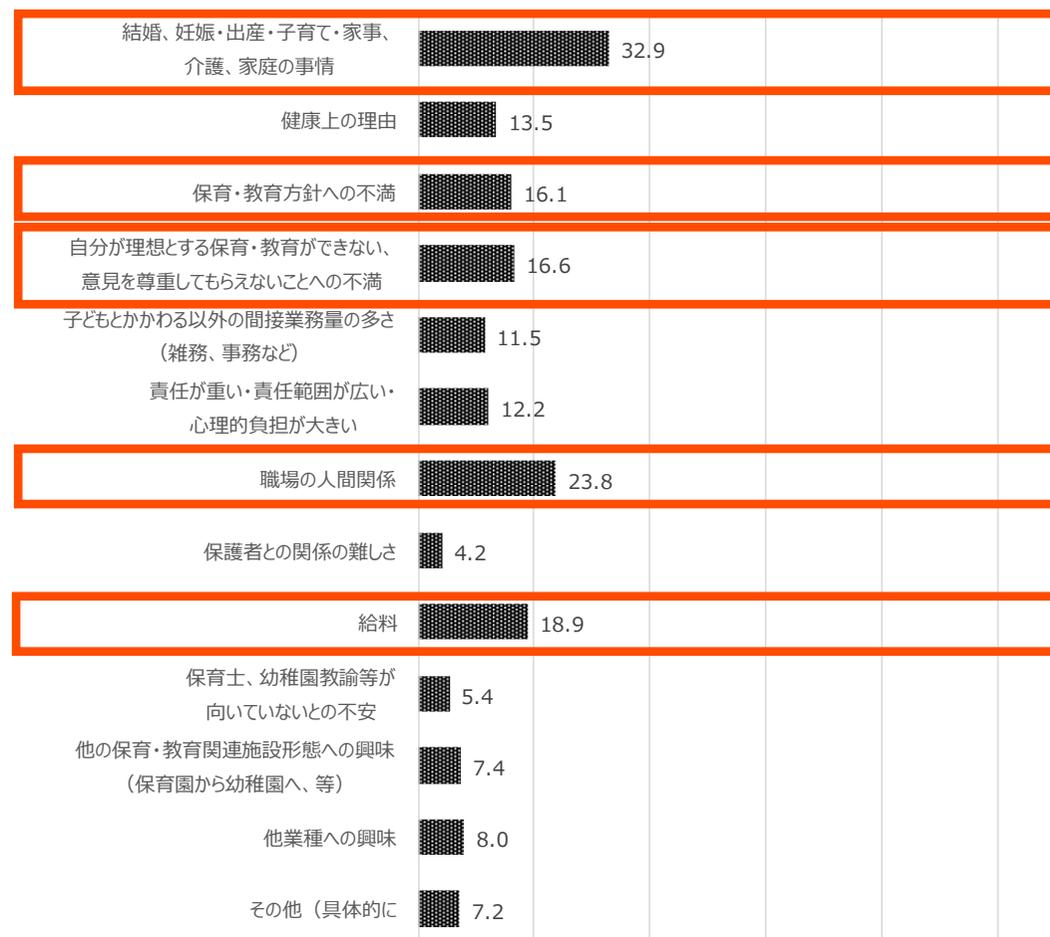
(%)



離職理由

(n=1,200)

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 (%)



3. 就職・離職 離職理由

勤務年数別

転職理由は、勤務年数「3年以上5年未満」、「5年以上7年未満」で「自分が理想とする保育・教育ができない、意見を尊重してもらえないことへの不満」が約20%。

「1年以上3年未満」、「3年以上5年未満」で「職場の人間関係」が約27%となっている。

(%)

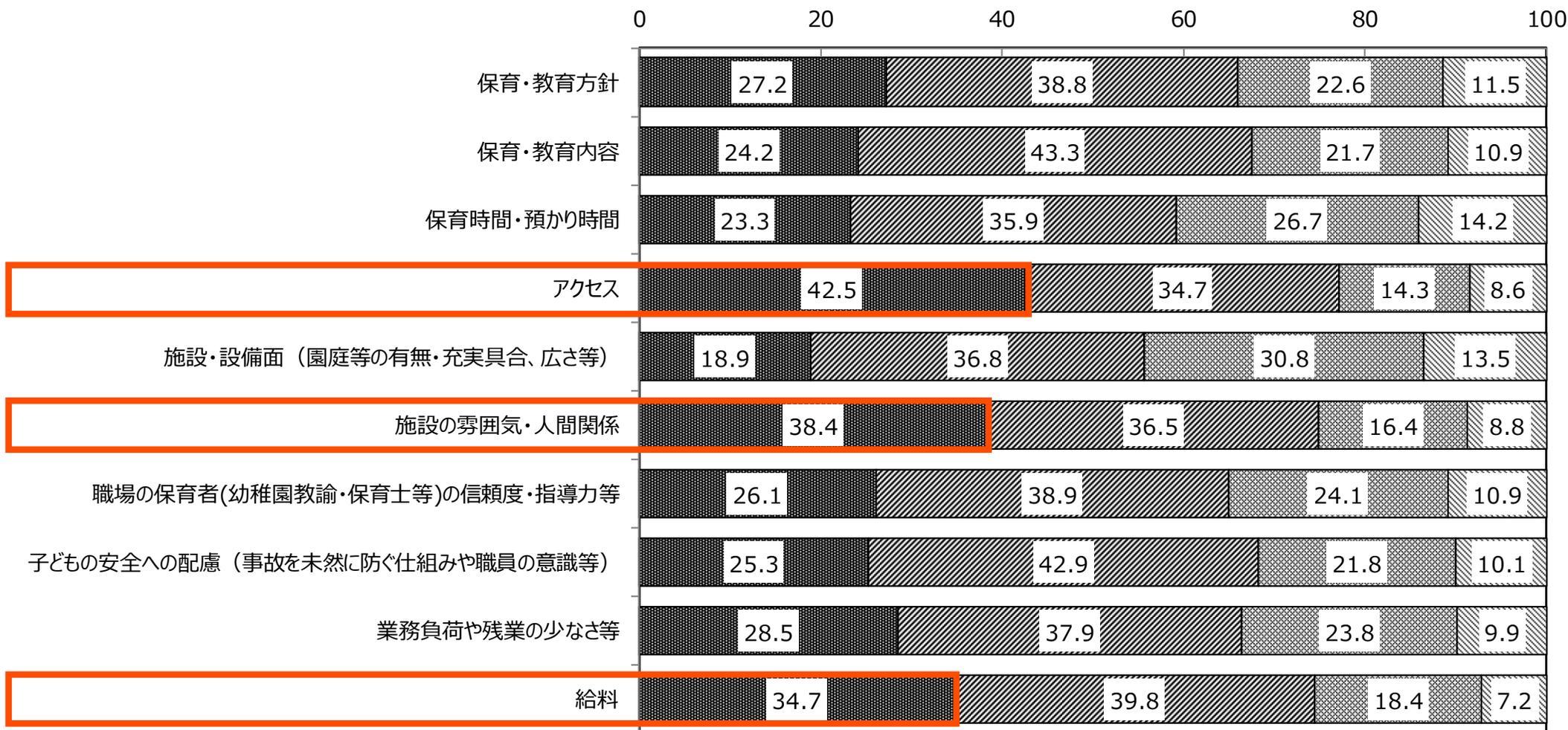
	結婚、介護、妊娠、家庭の事情	健康上の理由	保育・教育方針への不満	いきなり理想とする保育・教育がでないことへの不満	自分が理想とする保育・教育ができない理由（雑務、事務など）	子どもの多さ（かわる以外の間接業務）	責任が重い・責任範囲が広い・心理的負担が大きい	職場の人間関係	保護者との関係の難しさ	給料	保育士の不安	（保育園から幼稚園へ、等）興味・保育・教育関連施設形態への	他業種への興味	その他（具体的に）
Total(n=1200)	32.9	13.5	16.1	16.6	11.5	12.2	23.8	4.2	18.9	5.4	7.4	8.0	7.2	
1年未満(n=38)	39.5	10.5	10.5	7.9	7.9	2.6	21.1	0.0	13.2	7.9	0.0	21.1	2.6	
1年以上3年未満(n=149)	24.2	24.2	17.4	16.1	14.1	12.8	27.5	5.4	16.8	8.1	3.4	8.7	6.0	
3年以上5年未満(n=215)	31.6	14.0	17.7	19.5	10.7	13.5	27.9	5.1	19.1	7.0	2.8	8.4	5.1	
5年以上7年未満(n=200)	33.0	12.0	15.0	20.0	12.0	13.0	24.0	5.0	21.0	6.5	11.0	8.0	3.5	
7年以上10年未満(n=171)	28.1	11.1	14.6	15.2	12.3	14.0	22.8	4.7	22.2	5.8	9.4	7.6	11.1	
10年以上15年未満(n=198)	41.9	11.1	13.1	14.1	11.1	9.1	22.2	2.5	17.7	1.0	6.6	6.6	6.1	
15年以上20年未満(n=114)	32.5	12.3	20.2	17.5	12.3	15.8	22.8	5.3	18.4	7.9	8.8	10.5	10.5	
20年以上(n=115)	36.5	11.3	18.3	13.9	8.7	9.6	16.5	1.7	17.4	0.9	14.8	2.6	13.0	

3. 就職・離職 現在働いている施設を選択した際重視した項目

現在働いている施設を選択した際重視した項目は、「アクセス」、「施設の雰囲気・人間関係」、「給料」の順に多い。

(n=2,000)

■ 重視した ▨ やや重視した ▩ あまり重視しなかった □ 重視しなかった (%)

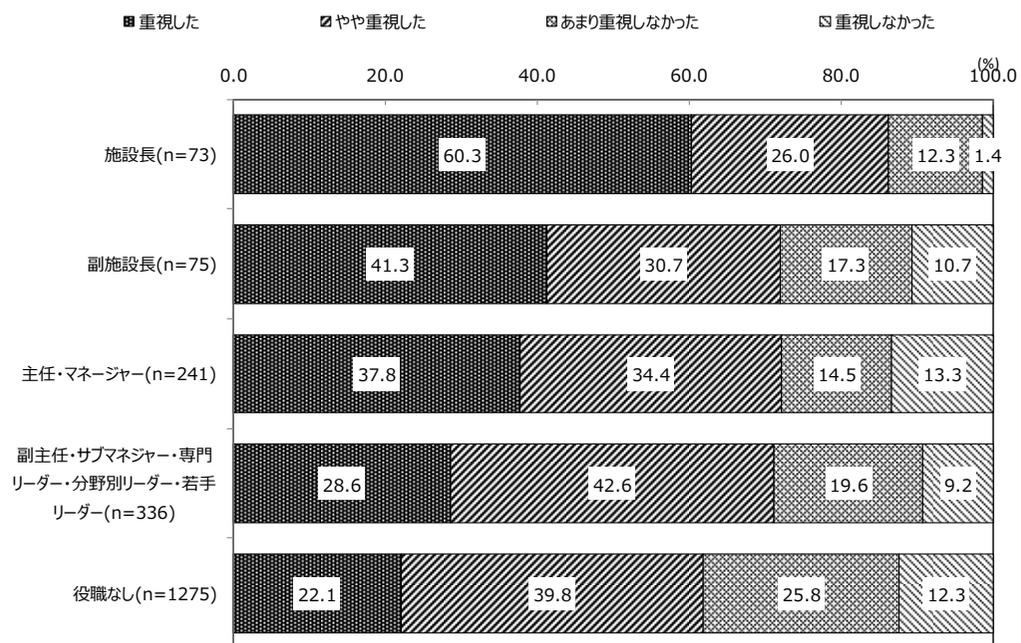


※現在、保育・教育施設で働いていない方は、過去（直近）に働いていた施設について回答

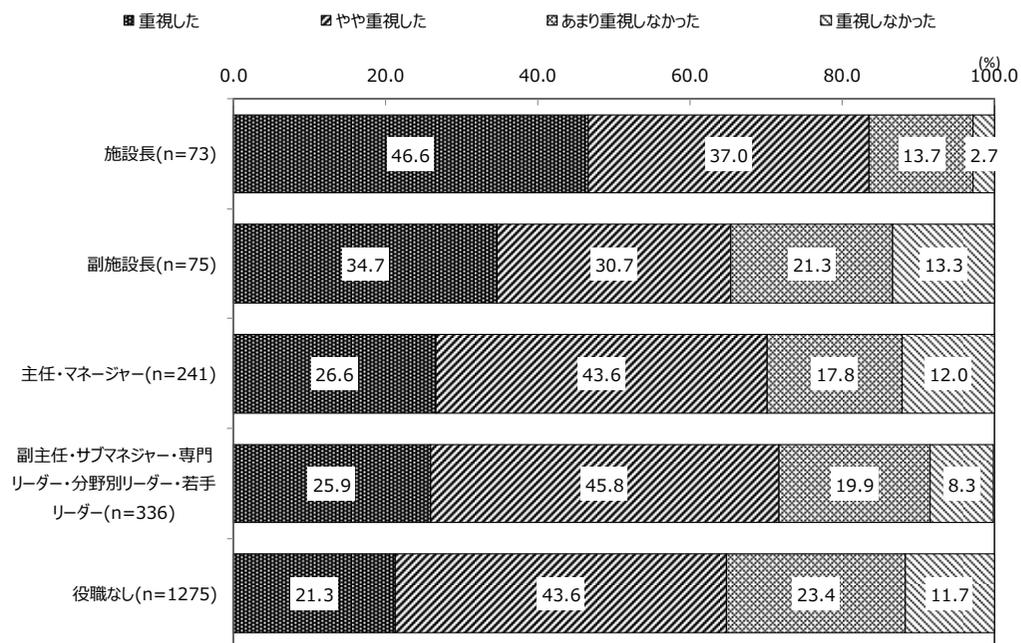
3. 就職・離職 現在働いている施設を選択した際重視した項目

現在働いている施設を選択した際重視した項目は、役職別には、「保育・教育方針」、「保育・教育内容」は役職者ほど重視している。

保育・教育方針



保育・教育内容



※現在、保育・教育施設で働いていない方は、過去（直近）に働いていた施設について回答

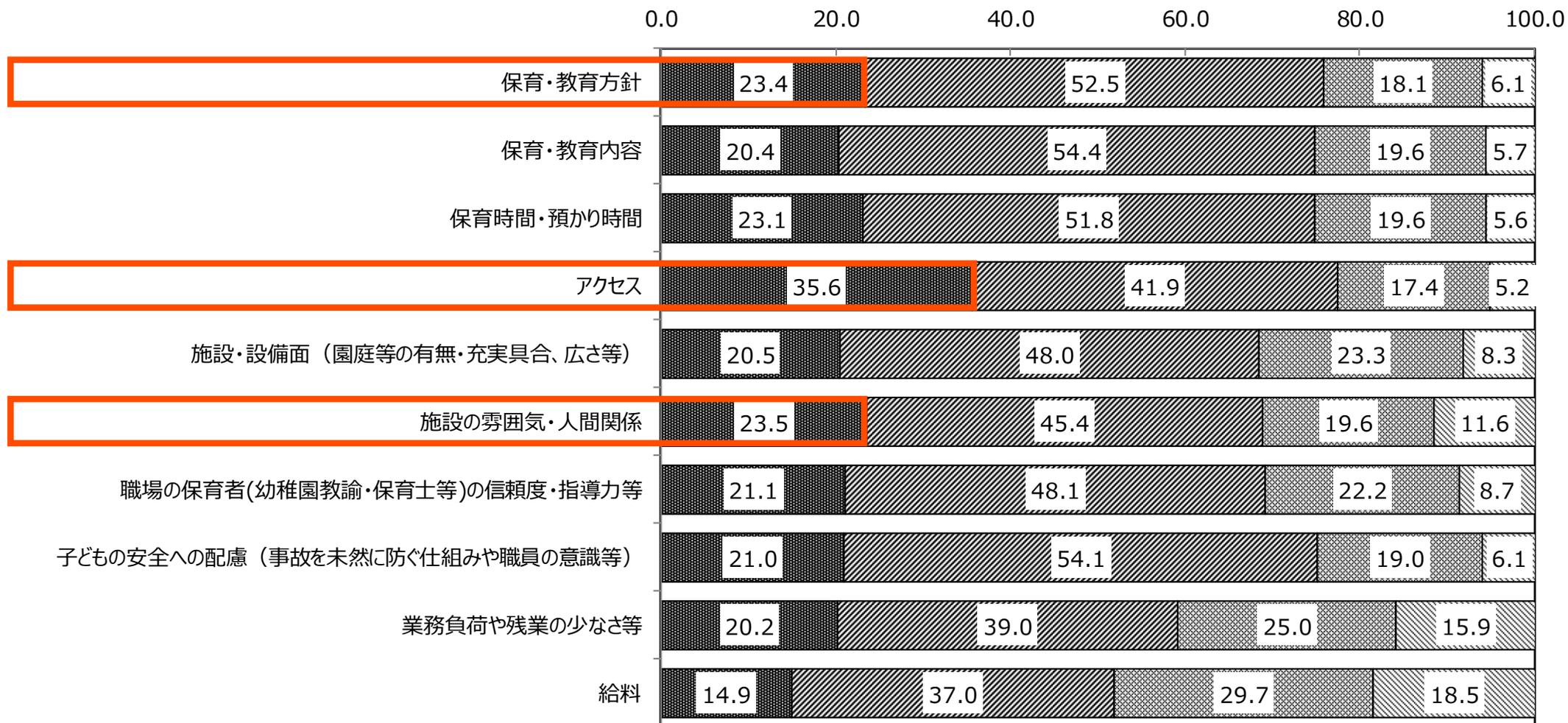
4. 満足度 現在働いている施設の満足度

現在働いている施設の満足度は、「アクセス」、「施設の雰囲気・人間関係」、「保育・教育方針」の順に多い。

(n=2,000)

■ 満足 ■ どちらかという満足 ■ どちらかという不満 ■ 不満

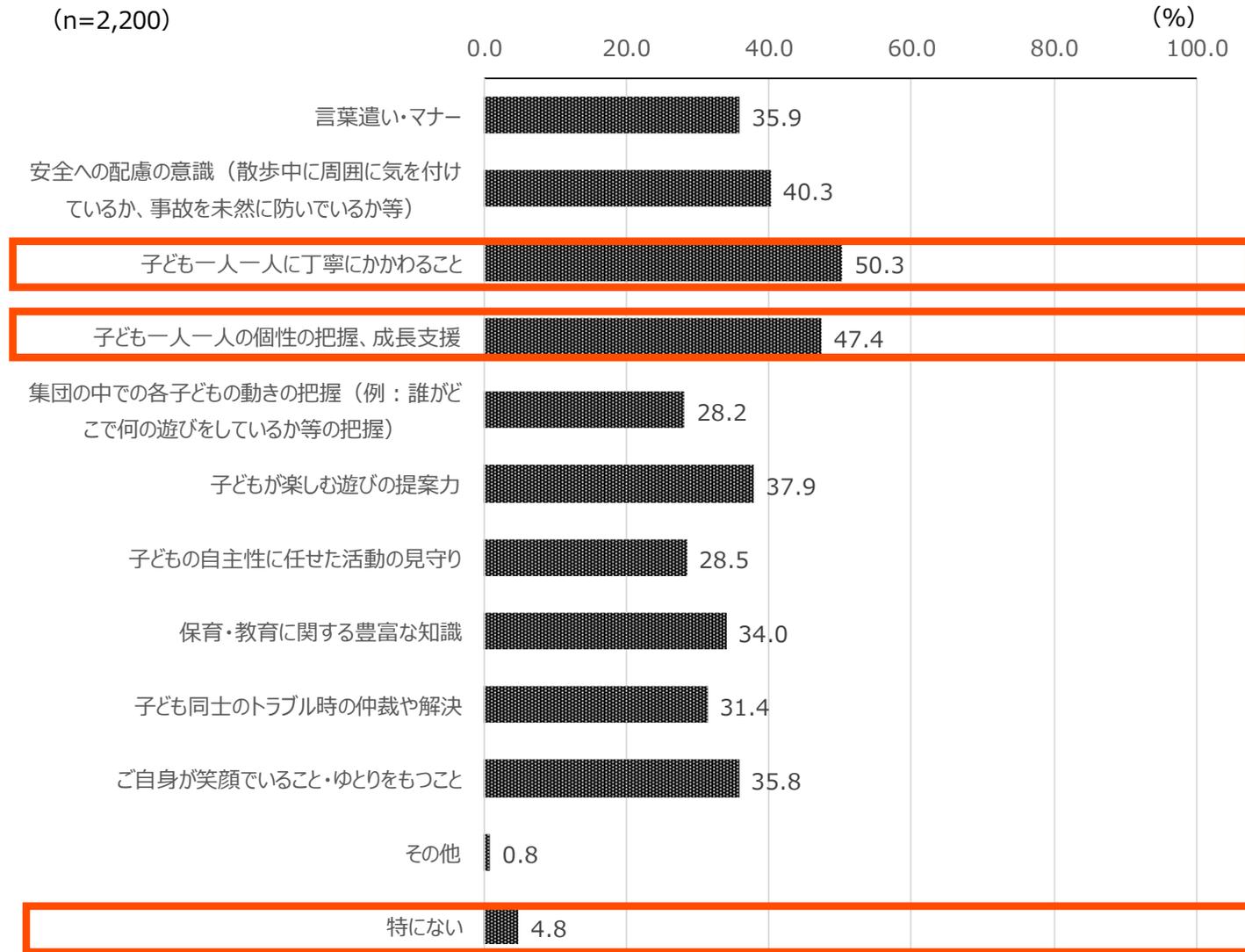
(%)



※現在、保育・教育施設で働いていない方は、過去（直近）に働いていた施設について回答

5. 子どもとの接し方 課題

- 「子どもとの接し方について、ご自身の中での理想に照らして、課題と感じていること」は、「子ども一人一人に丁寧にかかわること」、「子ども一人一人の個性の把握、成長支援」の順に多い。95.2%の人が何らかの課題を感じている。



※現在、保育・教育施設で働いていない方は、過去をふりかえり回答 以下の設問も同様

5. 子どもとの接し方 課題

役職別

- 「子どもとの接し方について、ご自身の中での理想に照らして、課題と感じていること」は、役職別には「子ども一人一人に丁寧にかかわること」、「子ども一人一人の個性の把握、成長支援」、「子どもが楽しむ遊びの提案力」、「保育・教育に関する豊富な知識」、「集団の中での各子どもの動きの把握（例：誰がどこで何の遊びをしているか等の把握）」、「ご自身が笑顔でいること・ゆとりをもつこと」は副主任等や役職なしの保育者で多い。 (%)

	言葉遣い・マナー	然に防いでいるか等	安全への配慮の意識（散歩中に周囲の気を付けているか）	子ども一人一人に丁寧にかかわる	長支も一人一人の個性の把握、成長	て握集（例：誰がどこで何の遊びをし	子どもが楽しむ遊びの提案力	守りどもの自主性に任せた活動の見	保育・教育に関する豊富な知識	解決ども同士のトラブル時の仲裁や	ご自身が笑顔でいること・ゆとり	その他	特にな
Total(n=2000)	35.9	40.3	50.3	47.4	28.2	37.9	28.5	34.0	31.4	35.8	0.8	4.8	
施設長(n=73)	47.9	37.0	38.4	38.4	20.5	32.9	24.7	21.9	19.2	30.1	1.4	5.5	
副施設長(n=75)	26.7	48.0	32.0	30.7	22.7	22.7	22.7	16.0	17.3	24.0	0.0	2.7	
主任・マネージャー(n=241)	41.5	48.1	44.4	38.2	24.9	32.4	27.8	30.7	22.0	27.8	0.8	3.3	
副主任・サブマネージャー・専門リーダー・分野別リーダー・若手リーダー(n=336)	35.4	39.6	51.8	46.7	31.0	42.3	32.4	36.0	29.2	39.6	1.8	3.6	
役職なし(n=1275)	34.7	38.7	52.8	50.7	28.9	38.9	28.2	35.8	35.2	37.3	0.5	5.4	

5. 子どもとの接し方 課題と思う理由

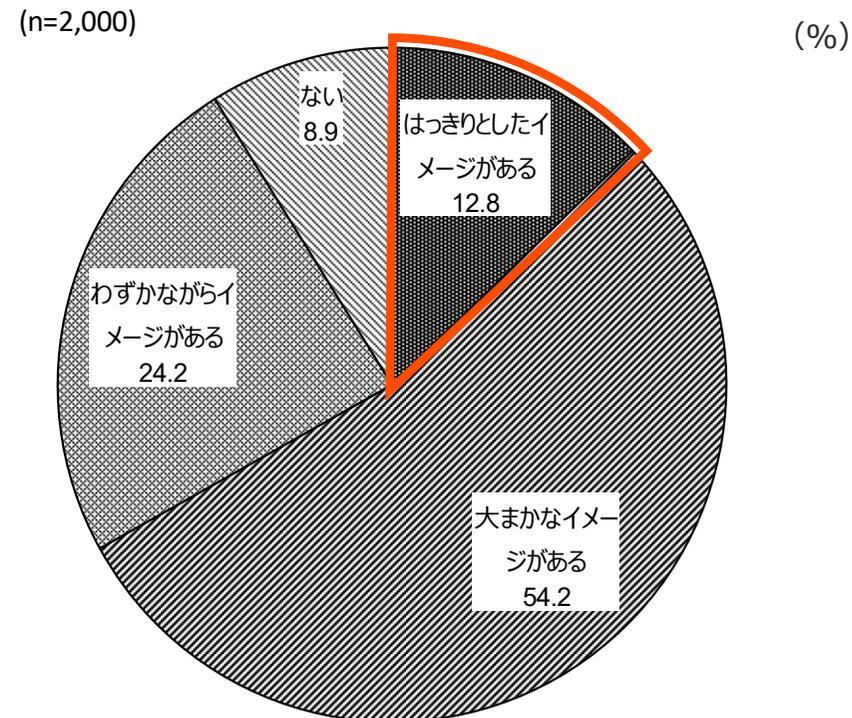
- 前問の子どもとの接し方の課題と感ずる要因は、「子ども一人一人に丁寧にかかわること」、「子ども一人一人の個性の把握、成長支援」、「集団の中での各子どもの動きの把握（例：誰がどこで何の遊びをしているか等の把握）」については「担当する子どもの数が多い」が最も多い。
- 「子どもが楽しむ遊びの提案力」、「保育・教育に関する豊富な知識」については、「スキルを学ぶ・身につける機会がない」、「自らの保育について、フィードバックを受ける機会がない」が多い。

(%)

	多 担 当 た す め る 子 ど も の 数 が	取 間 ら 接 れ る 務 等 た め に 時 間 を	不 シ 職 十 ヨ 員 分 間 の 情 コ 報 共 有 ニ ケ ー	不 シ 保 十 ヨ 護 分 ン 者 と 情 コ 報 共 有 ニ ケ ー	身 ス に キ ツ ル け を る 学 機 会 が な い	機 フ 会 イ が ー の な バ イ 育 ツ に ク つ を い 受 け る
言葉遣い・マナー(n=717)	34.9	19.5	22.3	19.5	17.7	16.5
安全への配慮の意識（散歩中に周囲に気を付けているか、事故を未然に防いでいるか等）(n=806)	40.0	20.3	27.5	12.7	16.0	17.1
子ども一人一人に丁寧にかかわること(n=1006)	45.7	27.9	20.1	12.1	15.3	15.0
子ども一人一人の個性の把握、成長支援(n=947)	41.3	25.1	23.7	16.3	15.9	17.3
集団の中での各子どもの動きの把握 （例：誰がどこで何の遊びをしているか等の把握）(n=564)	47.0	21.3	24.8	10.6	17.2	14.2
子どもが楽しむ遊びの提案力(n=757)	21.5	23.5	18.8	9.2	34.3	23.5
子どもの自主性に任せた活動の見守り(n=570)	32.8	24.4	21.2	11.6	19.8	20.4
保育・教育に関する豊富な知識(n=679)	15.5	21.6	17.1	10.5	42.4	29.6
子ども同士のトラブル時の仲裁や解決(n=627)	32.4	15.6	22.8	14.5	30.0	23.4
ご自身が笑顔でいること・ゆとりをもつこと(n=715)	30.3	35.0	24.1	10.2	14.3	19.2

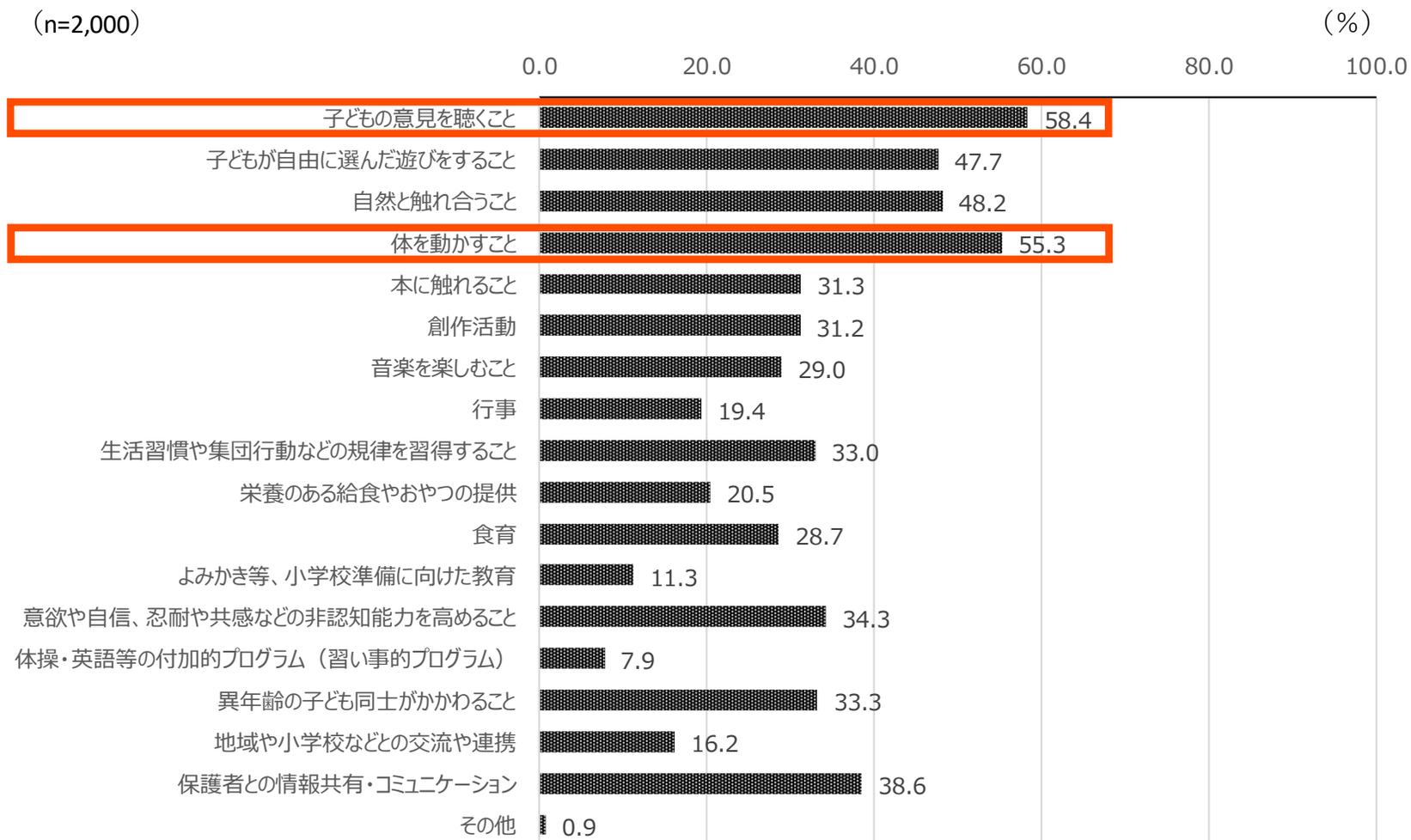
5. 理想とする保育・教育像の有無

- 「自分の中で、理想とする保育・教育像がありますか。」という設問に関しては、「はっきりとしたイメージがある」は12.8%。



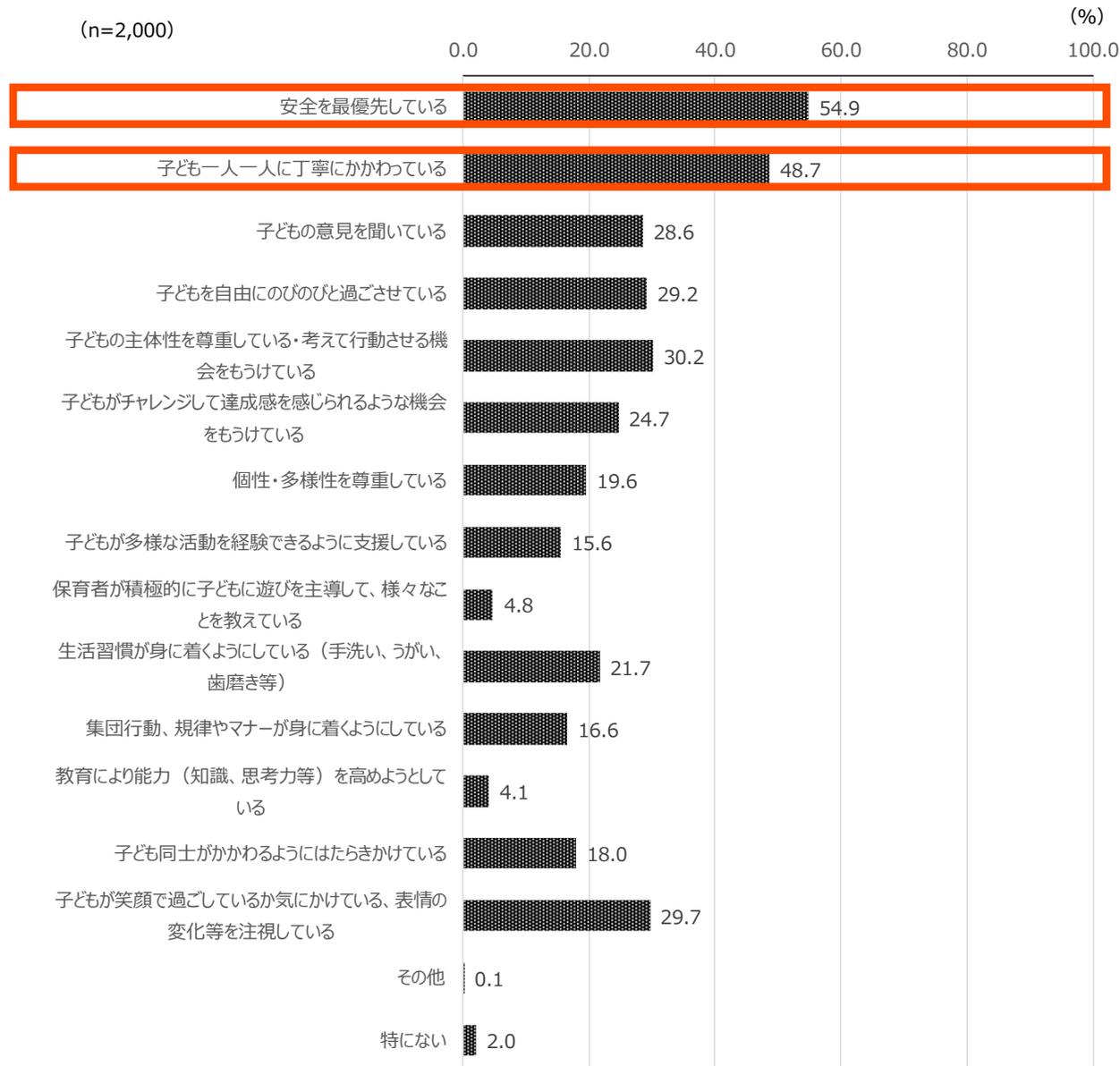
5. 理想とする保育・教育において、時間を多く割くべきと思うこと

- 理想とする保育・教育において、時間を多く割くべきと思うことは、「子どもの意見を聴くこと」が最も多い。次いで、「体を動かすこと」となっている。



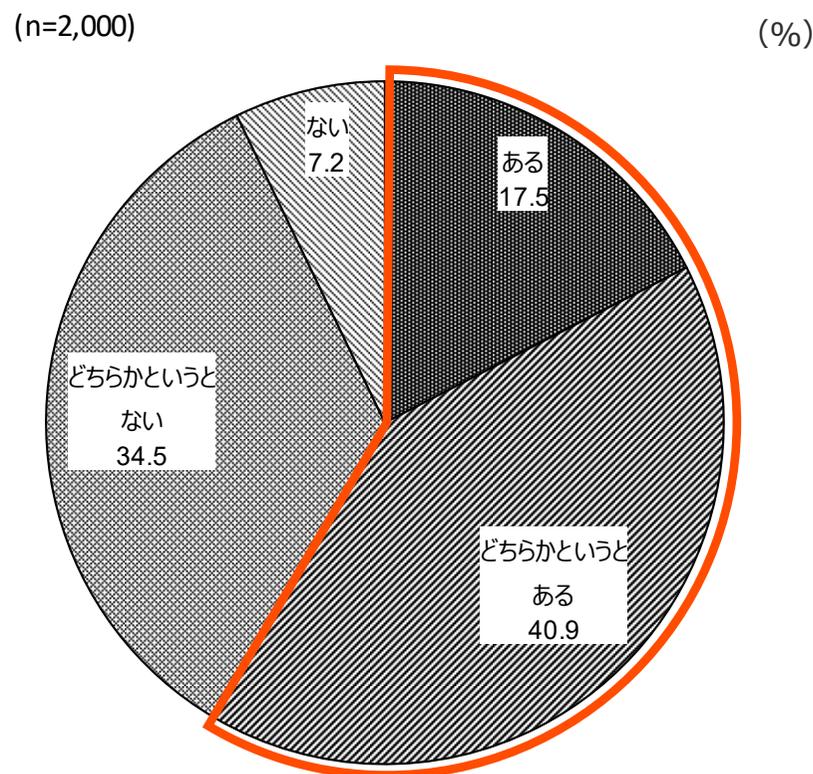
6. 日々の保育でご自身が気を付けていること

- 日々の保育でご自身が気を付けていることは、「安全を最優先している」、「子ども一人一人に丁寧にかかわっている」の順に多い。



7. 保護者とのコミュニケーション 保護者とのギャップ

- 「保育に関し、ご自身あるいは園が目指す方向性と保護者が求めるものとの間にギャップがあると感じますか。」という設問については、50%超の人が「ある」、「どちらかという」と答えている。

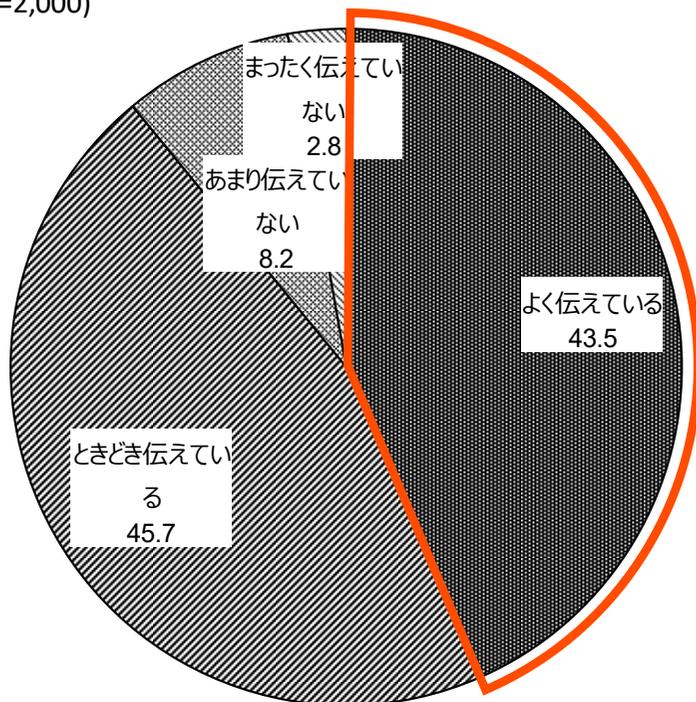


7. 保護者とのコミュニケーション 保護者への一人一人の子ども「個性」の伝達

- 「保護者との日頃のコミュニケーションにおいて、「生活の様子」（今日は何をした、どこに散歩に行った等）だけではなく、一人ひとりの子どもの「個性（たとえば、その子の得意なこと、日ごろ集中している遊び、集団の中での行動の特徴）」を伝えていますか（いましたか）。」という設問について、「よく伝えている」が43.5%。
- 「お勤めの施設から、保護者に向け、「子どもの“活動や行動”に関する写真や動画、記録（たとえば遊びや制作などの施設での活動の様子を記録したものや、何ができるようになった、どう行動した等の記録など）」は提供していますか。」という設問については、「よく提供している」が32.4%。

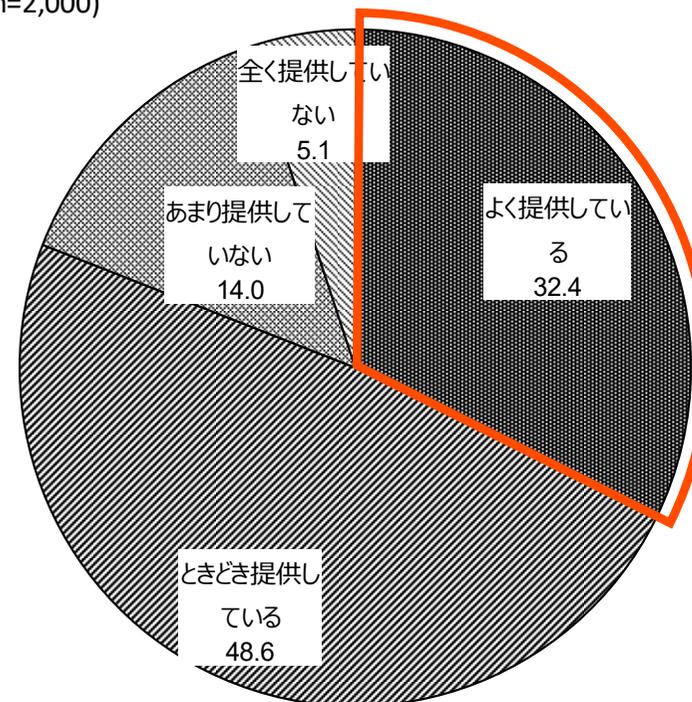
保育者からの伝達

(n=2,000)



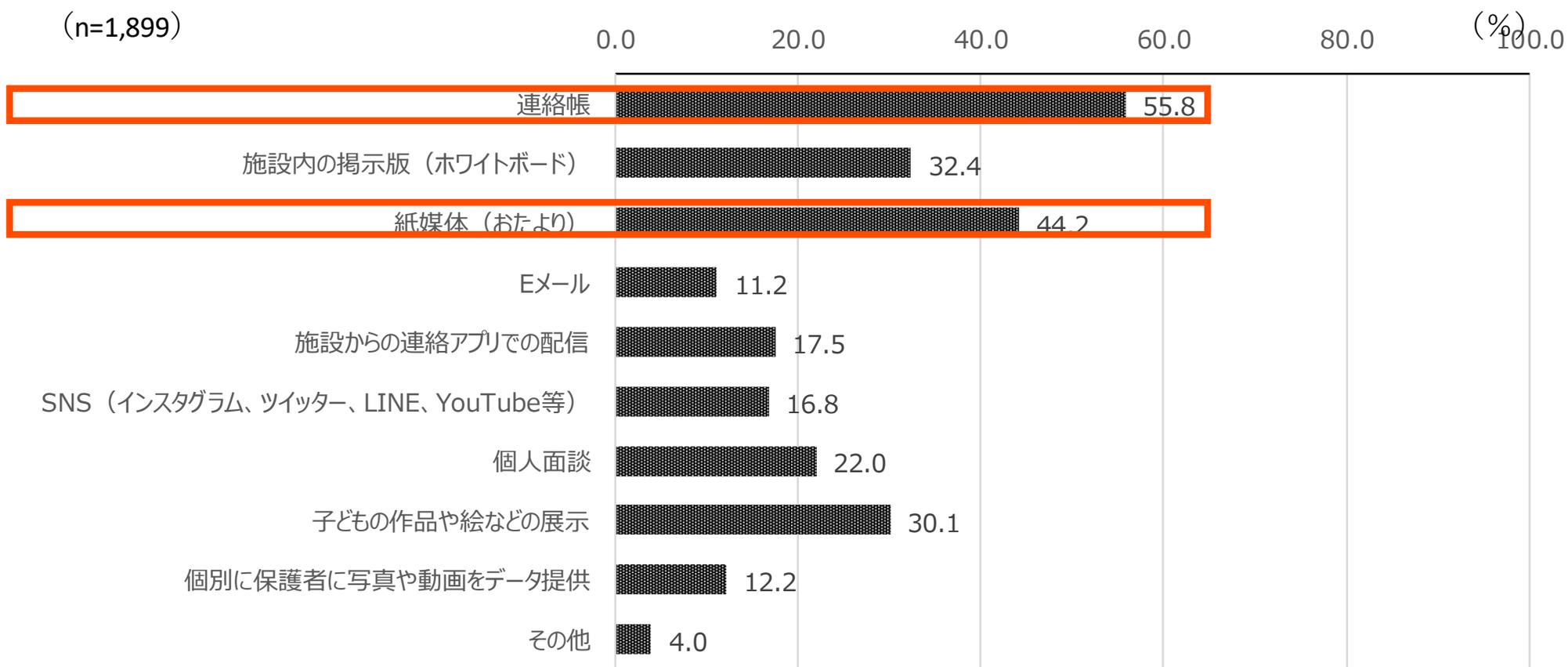
施設からの伝達

(n=2,000)



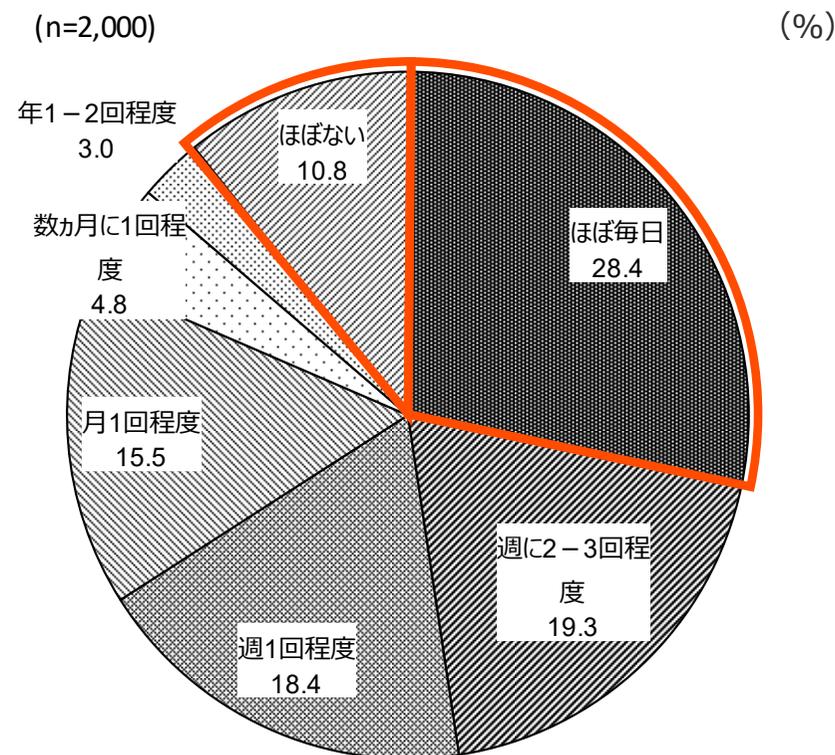
7. 保護者とのコミュニケーション「写真や動画、記録等」を提供する手段

- 前問の「写真や動画、記録等」を提供する手段は、「連絡帳」、「紙媒体（おたより）」の順に多い。



8. 保育者間の話し合い・フィードバックの機会

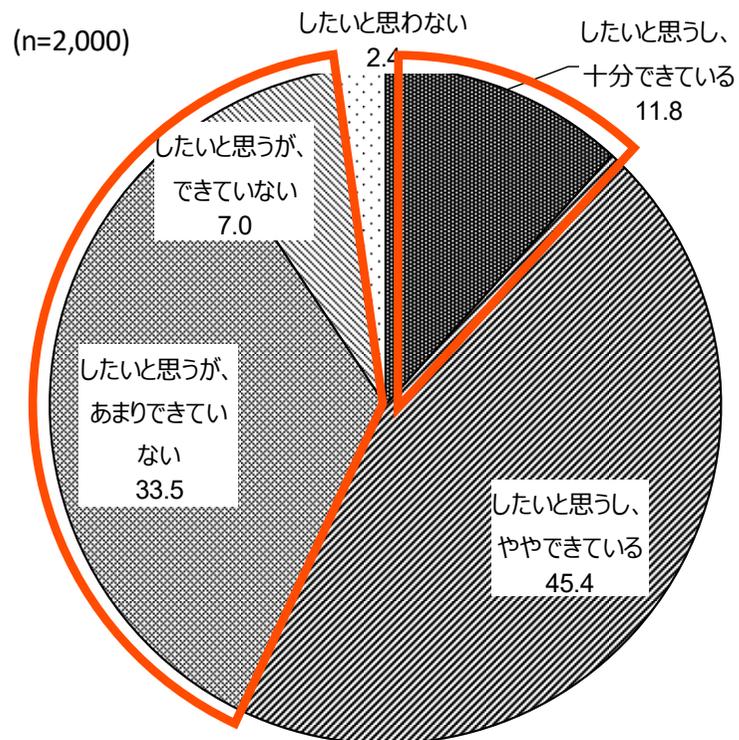
- 「個々の子どもの活動や行動の様子や成長、個性等について保育者同士で話し合ったり、フィードバックを受ける機会（どの程度ありますか（ありましたか））」という設問については、「ほぼ毎日」が28.4%の一方で、「ほぼない」も1割いた。



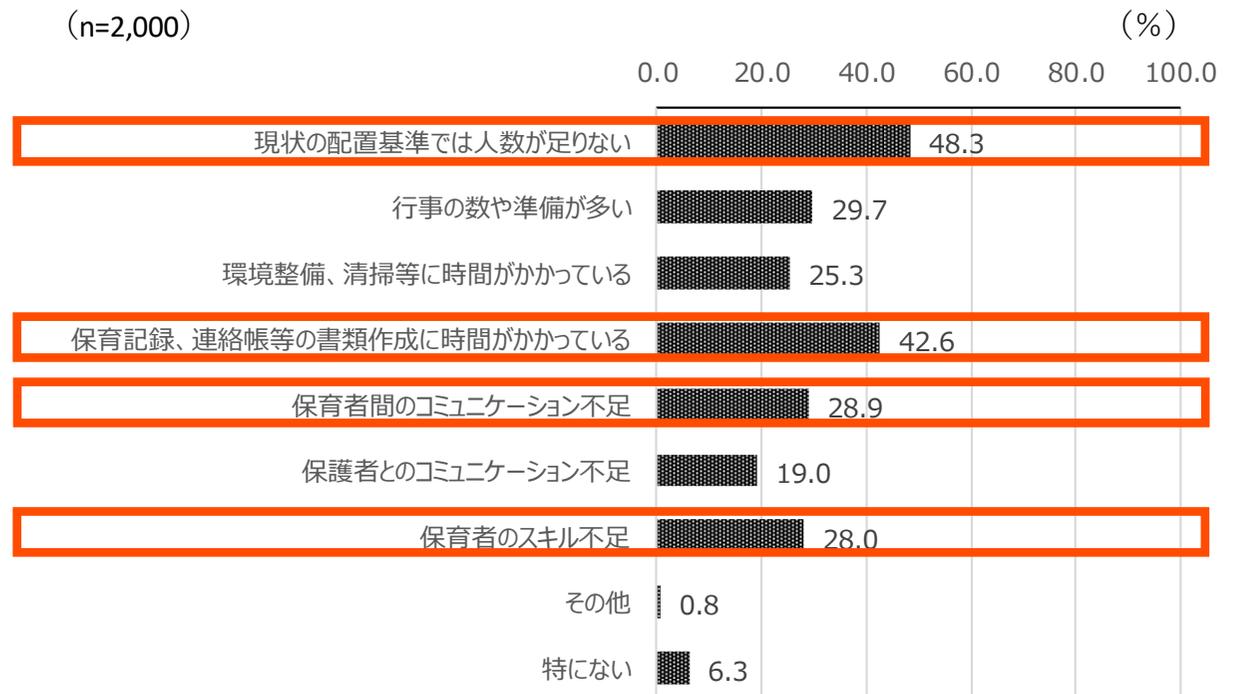
9. 「集団活動の中で、個々の子どもに寄り添う・子どもに沿った支援」の状況・課題

- 「集団活動の中で、個々の子どもに寄り添う・子どもに沿った支援をしたいと思う」人が97%超。うち、「十分できている」は11.8%にとどまる。「あまりできていない」、「できていない」が40.5%。
- 「個々の子どもに寄り添う・子どもに沿った支援をするための課題」は、「現状の配置基準では人数が足りない」、「保育記録、連絡帳等の書類作成に時間がかかっている」の順に多い。「保育者間のコミュニケーション不足」、「保育者のスキル不足」も約30%。

支援の状況

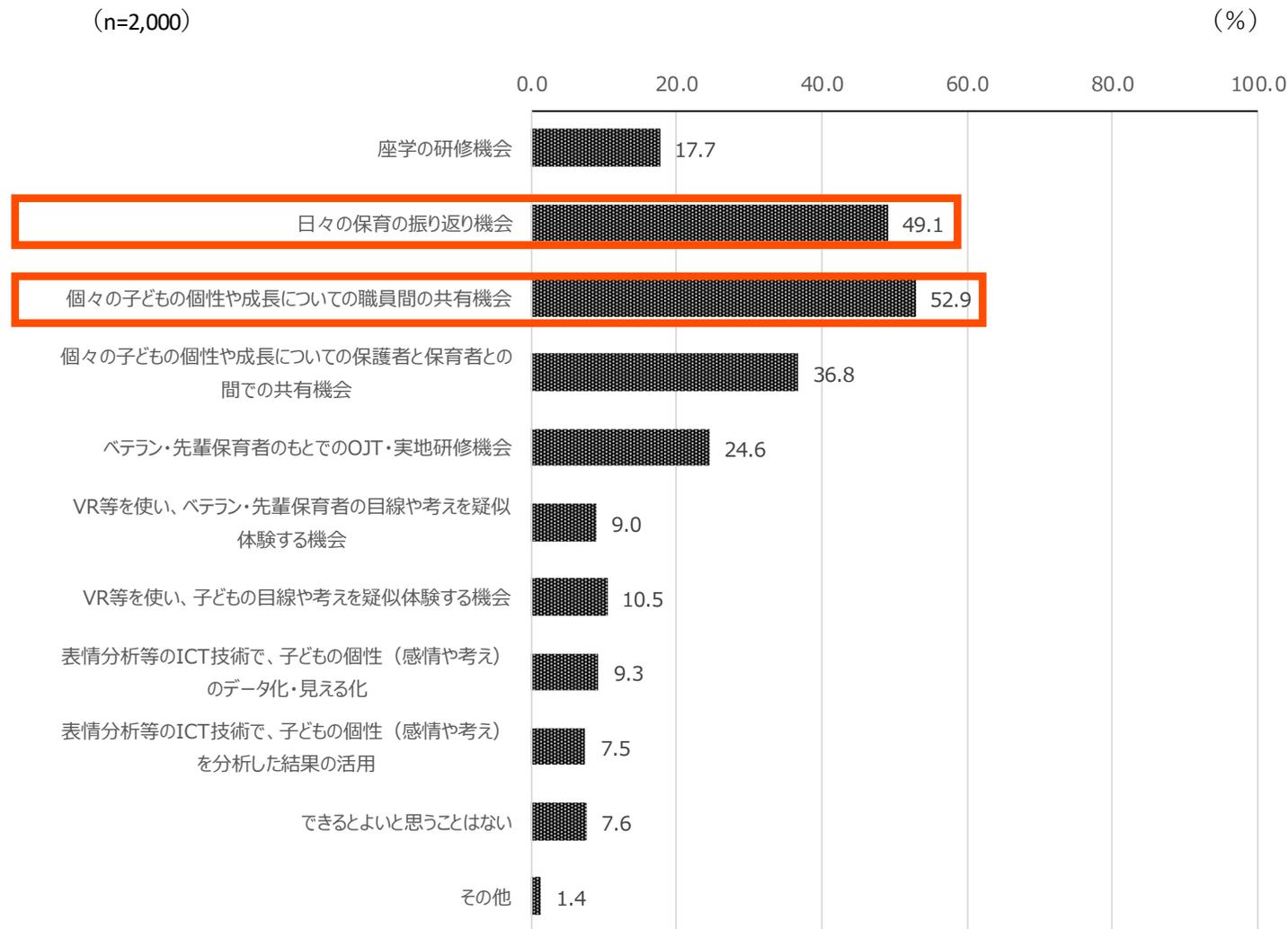


支援の課題



9. 「集団活動の中で、個々の子どもに寄り添う・子どもに沿った支援」実現方法

- 「個々の子どもに寄り添う・子どもに沿った支援をするために、どのようなことができるか」という設問に関しては、「個々の子どもの個性や成長についての職員間の共有機会」、「日々の保育の振り返り機会」の順に多い。



10. よりよい保育・教育の実現のために、施設等に求めること

- 「職員間のコミュニケーション」が最も多く、次いで「職員のスキルアップ、保育・教育に関する知識の習得機会」が多い。

